

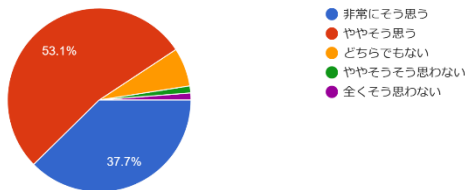
SSH 総合知講演会



3月7日(金) 柏崎市産業文化会館にて、ロシア文学翻訳者、作家、早稲田大学講師の奈倉有里先生をお迎えし、本校1、2年生対象にSSH総合知講演会を行いました。

「平和と文化を学問でつなぐ」—平和を人類共通の課題とするために—という演題で、ロシア、ウクライナの現状を例に、なぜ、戦争が起こるのか、このような事態になったのはなぜか、また戦争の責任を考える上で、どういった問いから始めればよいのか、また、私たちにできることは何かを豊富な資料、動画を駆使して、お話いただきました。教員、生徒からの質問もあり、90%以上の生徒が、「総合知」に対する興味、関心が高まったと回答しました。

8 今日の講演を聞いて「総合知」(平和・文化...問等)全般に対する興味関心が高まりましたか?
162件の回答



生徒の感想

- 今まで知らなかったことを、文学的観点から説明していただいととてもわかりやすく納得できた。
- ロシアの全員が戦争したいと思っていないのを知って、国民の中ではやっぱり戦争はよくないという意識が根付いていることがわかり、よかった。政治にNOと言えない国にならないようにしたいと思った。
- ロシアとウクライナの戦争について詳しく知ることができた。「なぜ戦争が起こってしまったのか」という疑問に対しての答えを3通り紹介しながら、どのような答え方がいいのかを説明していたのが勉強になった。
- ロシアのスタバが撤退したところに新しいカフェが出来たニュースで、若者がインタビューで、プラスな回答をしていたことに違和感を感じていたので、その映像もロシア側が検閲したものだと考えれば腑に落ちた。
- 改めて戦争の残酷さについて再認識させられた。一人一人が戦争という手段による物事の解決は間違っているということを認識することが大切であると思う。

講師

奈倉有里 先生

父は歴史学者の奈倉哲三。弟は作家の逢坂冬馬。ロシア国立ゴーリキー文学大学卒業。東京大学大学院人文社会系研究科 関東学院大学、東京大学、聖心女子大学、早稲田大学講師

第2回東京大学而立賞を受賞。第44回サントリー学芸賞（芸術・文学部門）。第32回紫式部文学賞受賞。第76回読売文学賞受賞。

主な単著 『夕暮れに夜明けの歌を：文学を探しにロシアに行く』『アレクサンドル・ブローク：詩学と生涯』『ことばの白地図を歩く：翻訳と魔法のあいだ』創元社〈あいだで考える〉『ロシア文学の教室』文藝春秋〈文春新書〉『文化の脱走兵』講談社

主な翻訳 (ミハイル・シーシキン)『手紙』新潮社〈新潮クレスト・ブックス〉(ボリス・アクーニン)『トルコ捨駒スパイ事件：ファンダーリンの捜査ファイル』岩波書店 (リュドミラ・ウリツカヤ)『陽気なお葬式』新潮社〈新潮クレスト・ブックス〉『ドストエフスキー：ポケットマスターピース』沼野充義編、集英社文庫ヘリテージシリーズ(サーシャ・フィリペンコ(英語版))『理不尽ゲーム』集英社 (サーシャ・フィリペンコ)『赤い十字』集英社

